

シナプス

第216号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成26年10月16日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム
☆担任の保育日誌から ☆身体測定・万歩計計測・出席率結果

安心・安全感覚の中で……

木曾御嶽山の突然の噴火によって、多くの尊い命が亡くなってしまったことに、改めて犠牲者の皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

私には、山登りの経験が全く無いので、訓練のレベルとか装備の程度とか心構えとかを論じる資格はありませんが、過去にもあまりにも軽装で登山したために命を落としたという新聞記事に接したこともあり、改めて自然の力の大きさや人間の無力さを考えさせられています。

御嶽山は、霊峰として崇められ親しまれ、3,000メートル級の山ではあるけれど、近年は大きな火山活動も無く、七合目まではロープウェイも自動車道も整備され、比較的安全で気軽に登山できる山だということです。噴火当日は、非常な好天で、紅葉の季節を迎えていることもあり、多くの登山者が入山している中での突然の噴火でした。もちろん、迅速な救援活動が展開され、毎日数千人規模の自衛隊員・警察官・消防署員が動員されました。

火山学者も地質学者も気象関係者も登山家たちも、ほとんど危険性を訴えることなく、登山者の誰もが安心して入山していた状況のようですが、この誰もが安心してという状況が問題なのかもしれません。

何十年・何百年に一回起こるか起こらないかという災害に対する我々一般市民の感覚は、切羽詰まったものにはなりにくく、むしろそれに目をつむってしまって、あるいはのど元すぎれば熱さ忘れるのごときで、忘れ去ってしまって、記録や昔から言い伝えられている教訓をもないがしろにしてしまって、安心・安全の感覚だけに浸りきってしまう傾向があるようです。

その意味では、原発の再稼働の可否基準の中に、何万年・何十万年前に起こった断層への危険度をも重視している見解には一理があるのかもしれない。

次元は違いますが、誰もが安心して生活できていると思っただけで、神戸の小学女子児童が殺害され、しかもバラバラに切り刻んで山中に捨てられるというとんでもない事件が起きました。誰もが安心して散歩できると考える町中でも、危険ドラッグを吸引した自動車運転者による凄惨きわまりない事故も起こっています。

毎日数十件ものメールが入る“安心・安全メール”では、至る所で変質者による子どもたちへの被害も報告されており、安心・安全な生活は、もはやどこにも無いというのが現実です。

だからこそ、通園バスで園児を送って行った停留所に保護者がおられない場合はそのまま幼稚園に連れ帰って、後で保護者に迎えにきていただきます。停留所のお迎えに小学生や中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんが出るのは論外です。

自転車に幼児を乗せる時のヘルメット着用は、今や一般常識です。

道路の横断では、横断歩道をわたるのも一般常識。遠回りでも横断歩道をわたります。

ましてや、赤信号なのに車が来ていないからといって渡ってしまうのは犯罪であり、人命軽視の極みであり、安心・安全だけに埋没している自己中心主義＝ジコチュウ＝そのものです。

幼稚園の送迎に自動車で来て、ちょっとだけだからと、幼稚園入り口の駅前道路に路駐しておくのもジコチュウの極みです。

辻本 博人